

科目名	コーポレートファイナンス Corporate Finance		選択	2 単位
学期・曜日・時限	秋・火・3 限	秋・火・6 限	-	-
担当教員名	唐木 宏一	e-mail		
<p><講義の概要と目的></p> <p>コーポレートファイナンスの取り扱う主題は、非常に多岐にわたっている。また、その主要な部分では一定の数学的素養が求められることもあり、多くの学生にとってはとっつきにくい学問と認識されがちではないか。そこで本講義では、「基礎科目としてのコーポレートファイナンス」として、事業価値とその計測評価（手法）、資産価格の相対評価、リスクとリターン、資金調達、投資家への利益還元等の通常この領域で論じられる諸テーマについて、直観にも基づきつつ系統的にそれらの概略と考え方について学んでいく。とりあげる主題については、下記講義計画で予定する以外のものについても、受講生からの提案要望に応じる。</p> <p><到達目標></p> <p>本講義の目的は「ファイナンス」の考え方を理解し、企業実務や生活の場において適切に応用できるようにすることである。そのため、主要な用語の概念定義とそれらの道具としての使い方については、的確に習得することを求めるが、ごく基礎的なものを除き「式」等の丸暗記は求めない（必要に応じて書籍で調べれば足りるため）。ところでこの目的の達成は、講義を一方向的に聴くことのみでは困難である。受講者諸君の質問や意見の開陳など積極的な参加が求められる。</p> <p><アクティブ・ラーニング要素></p> <p>ケースについて、受講者同士のディスカッションを最低でも 1 回（13 回目想定）は実施する。</p> <p><ゲストスピーカー招聘></p> <p>機関投資家実務経験者による講義を予定（14 回目に昼、夜とも開講の予定）。積極的に質問すること。</p> <p><講義計画></p> <p>1 回目：イントロダクション/コーポレートファイナンスの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：企業価値、ファイナンスの意味と、それらを学ぶ意味の確認 <p>2 回目：投資にあたっての判断Ⅰ 価値について①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：現在価値、割引率、フリーキャッシュフロー、機会費用について <p>3 回目：投資にあたっての判断Ⅱ 価値について②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：バランスシートと企業価値、株価算出、PV から NPV、簡便法、連続複利 <p>4 回目：投資にあたっての判断Ⅲ 投資基準について①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：NPV（正味現在価値）、IRR（内部収益率）、ROC（総資本利益率）、EVA（経済的付加価値） <p>5 回目：投資にあたっての判断Ⅳ リスクとリターン①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：リスク、分散投資、安全資産利子率、効率的ポートフォリオ、資本市場線 ほか <p>6 回目：投資にあたっての判断Ⅴ リスクとリターン②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：証券市場線、ベータ、マーケット・リスク（・プレミアム）、CAPM ほか <p>7 回目：投資にあたっての判断Ⅵ リスクとリターン③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：リスクヘッジの手法と付随する問題 <p>8 回目：資金調達と企業価値Ⅰ 資金調達概論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：株式と負債、証券の発行、第三の調達方法 				

9 回目：資金調達と企業価値Ⅱ 負債政策

- ・要点：資金調達の方法（株式と負債）と特徴、MM 定理、負債政策の考え方

10 回目：資金調達と企業価値Ⅲ 評価

- ・要点：WACC(加重平均資本コスト)とその使い方、留意点

11 回目：資産評価の総括とマルチプル（PER、EBIT、PEG Ratio）

- ・要点：1-10 週の統合（DCF 法）、倍率法、感応度分析ほか

12 回目：投資家への利益還元Ⅰ

- ・要点：配当と企業価値、配当と税金

13 回目：投資家への利益還元Ⅱ

- ・要点：適切な配当水準、ファナックの自社株取得のケースについてディスカッション予定

14 回目：その他の今日的テーマⅠ

- ・要点：ゲスト講師による講演・・・機関投資家の実際の活動、ESG 投資について

15 回目：総括

- ・要点：全体のレビューと金融論にかかる補足、意見交換

<講義の進め方>

教科書を足がかりとして実務への応用や、関連する今日的话题について講義をおこなうほか、人数構成等の面で可能であれば、チームを構築しチームでの討議とそのクラスへの報告を織り交ぜる。時間中の学生からの質問、意見はいつでも受け付ける。

<事前事後学習内容>

講義にて指示する範囲の教科書（章単位）と事前に SNS サークルにアップする講義資料を必ず 1 回は読んだうえで(精読までは求めない)、当日のテーマについて事前に疑問点等を明確にしておくこと。

<予習・復習時間>

各回の予習・復習にはそれぞれ 2 時間相当かかると想定され、詳細については講義時に指示する。

<教科書及び教材>

『コーポレート・ファイナンス 第 10 版 上』ブリーリー、マイヤーズ、アレン著 藤井、國枝監訳、日経 BP 社（第 8 版でも可）ほか、必要に応じ SNS を通じ配付する。

<参考書>

『日本のエクイティファイナンス』鈴木健嗣著、中央経済社
『コーポレートファイナンスの原理』ロス＝ウェスターフィールド著、大野訳、きんざい
『コーポレートファイナンス入門-企業価値向上の仕組み』野間幹晴、本多俊毅著、共立出版
『企業価値評価（上・下）』マッキンゼー・アンド・カンパニー著、ダイヤモンド社
ほか、必要に応じ指示する。

<成績評価方法>

レポート（期中 3 回程度実施の予定）、講義への参加（討議への貢献度等）の度合いを 7:3 の比率にて評価する。欠席 6 回以上は成績評価しない。

<課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法>

レポート受付時にコメントを予定。ほか、全体については講義の SNS サークルにて逐次実施予定。

<履修条件>

特になし。ただしレポート回答の一部には、表計算ソフトの使用が求められる。

<DVDによる視聴> 可

<オフィスアワー>

月曜5限。まず e-mail で連絡すること。左記指定時間以外でも時間を確保することがある。

<その他>

特になし。